

第34回 県政に関する世論調査の結果について

平成19年12月20日
千葉県総合企画部報道広報監
電話043-223-2265

県政に関する世論調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的として、昭和50年度から毎年実施しています。

昨年度から年2回実施しており、今回は本年度1回目で県内在住の満20歳以上の男女3,000名を対象に、本年8月に郵送法で実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康と福祉、千葉県の農産物、市民活動、千葉県の施策・政策、広報・広聴活動について県民の意識調査を行いました。

さらに、生き物とその環境を守る取り組み等の県政の主要課題及び「県政への要望」について調査を行いました。

1. 調査の設計

(1) 調査対象 千葉県在住の満20歳以上の男女個人

(2) 標本数 3,000人

(3) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

(4) 調査方法 郵送法（郵送配付－郵送回収）

(5) 調査時期 平成19年8月2日～8月22日

2. 回収結果

有効回収数（率）1,466（48.9％）

3. 調査の項目

(1) 県民意識調査

- ①環境と生活について
- ②健康と福祉について
- ③千葉県の農産物について
- ④市民活動について
- ⑤千葉県の施策・政策について
- ⑥広報・広聴活動について

(2) 県政の主要課題

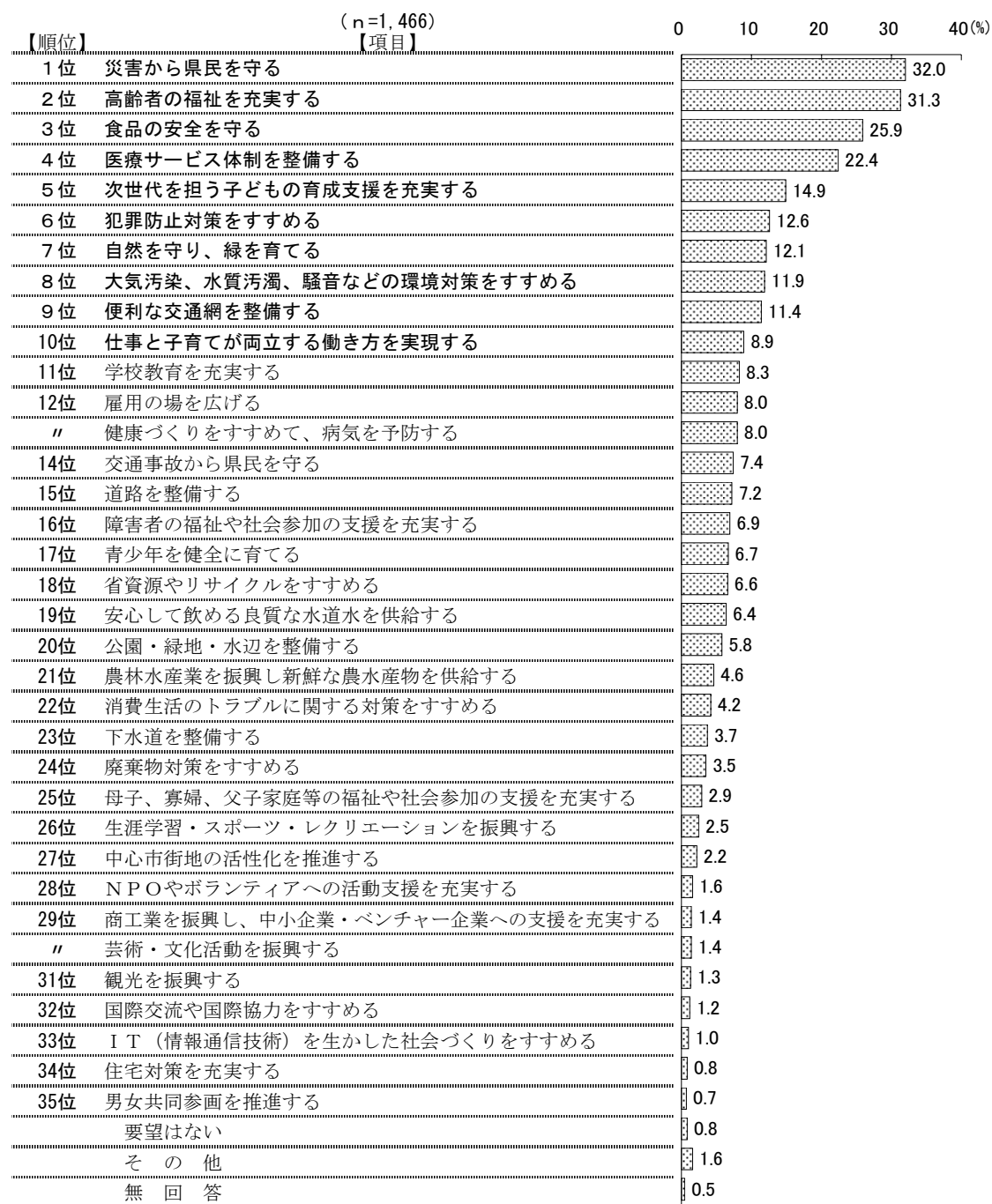
「生き物」とその環境を守る取り組みについて

(3) 県政への要望

4. 調査の結果

1 県政への要望

(1) 県政への要望



今回調査の主な特徴

1. 「災害から県民を守る」、「高齢者の福祉を充実する」、「医療サービス体制を整備する」に対し、県民各層から根強い要望がある。
2. 「災害から県民を守る」が昨年3位から1位、「食品の安全を守る」が昨年7位から3位へと要望順位が上昇。「食品の安全を守る」は、特に50代以上の要望が高い。
3. 30代は男女とも「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」が2位、女性は「仕事と子育てが両立する働き方を実現する」がトップ。

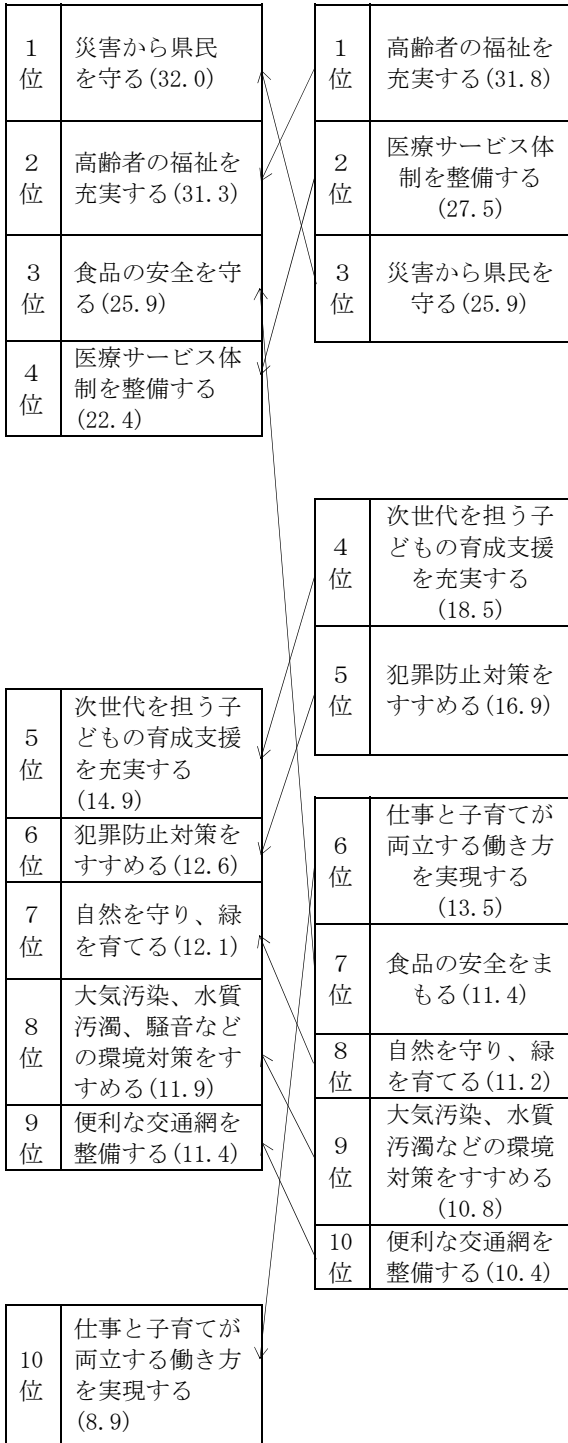
■ 県政への要望／上位 10 項目の推移

《郵送法》

【平成 19 年】
(n=1, 466)

【平成 18 年】
(n=1, 467)

37 の選択項目から
3 つまでの複数回答



《面接法》

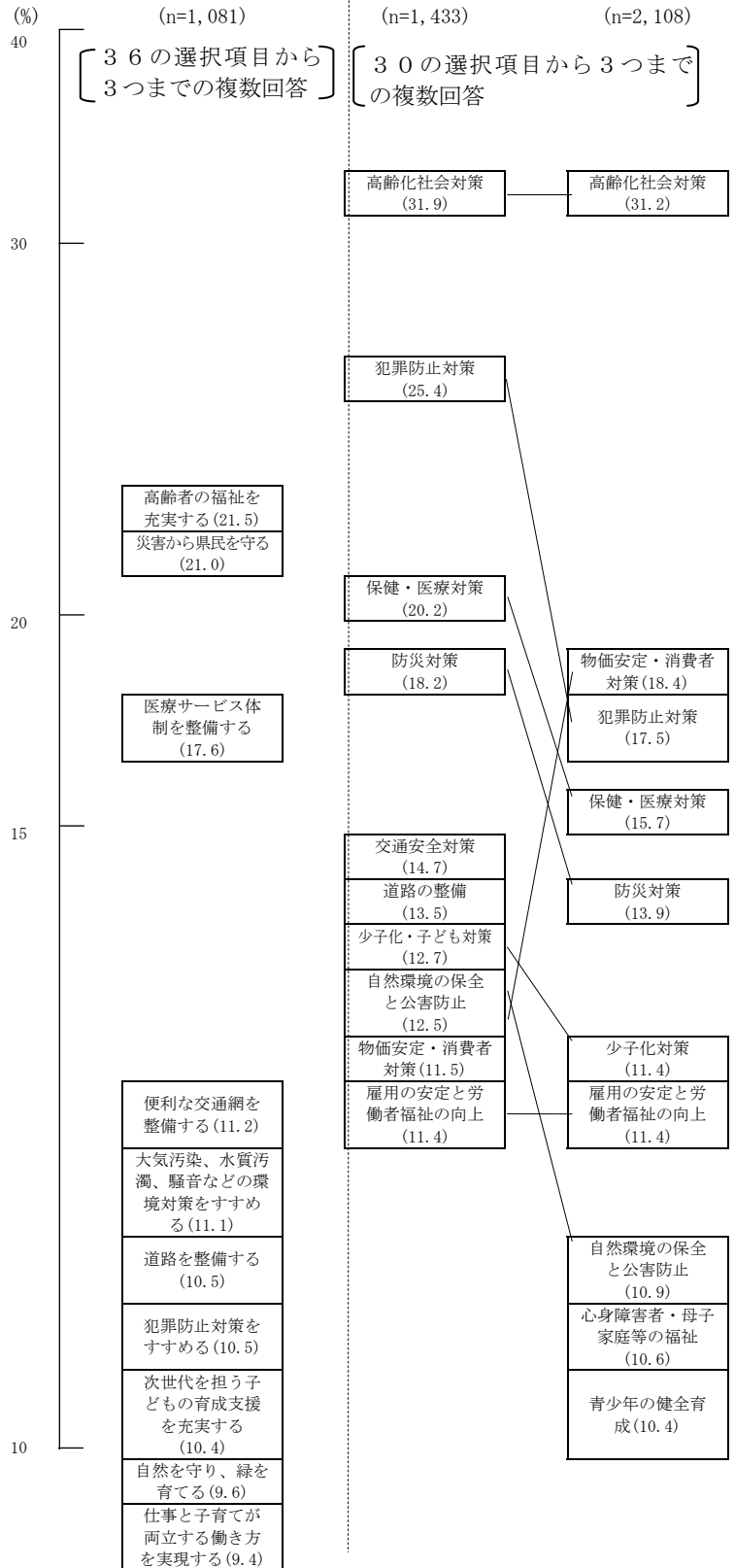
【平成17年】
(n=1, 081)

【平成16年】
(n=1, 433)

【平成15年】
(n=2, 108)

36 の選択項目から
3 つまでの複数回答

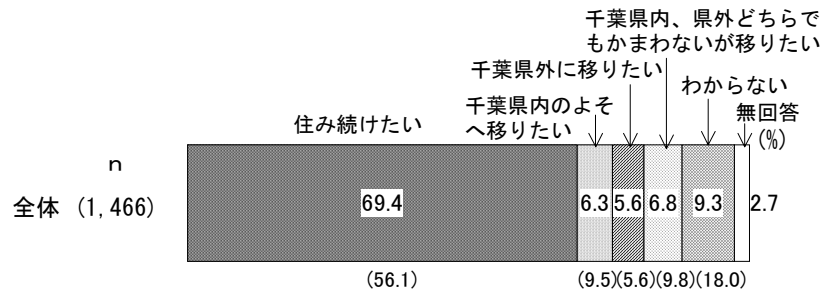
30 の選択項目から 3 つまで
の複数回答



2 環境と生活について

(1) 今後の居留意向

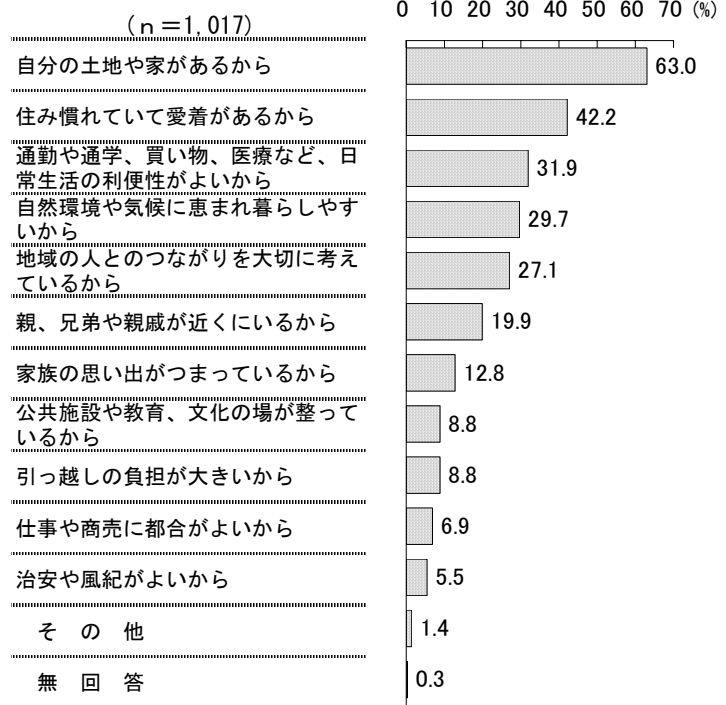
現在住まいの地域に、今後の居留意向を聞いたところ、「住み続けたい」(69.4%)が約7割で多くなっている。一方で、「千葉県内のよそへ移りたい」(6.3%)、「千葉県外に移りたい」(5.6%)、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(6.8%)を合わせると、『移りたい』(18.7%)は約2割である。



注) 下段の () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

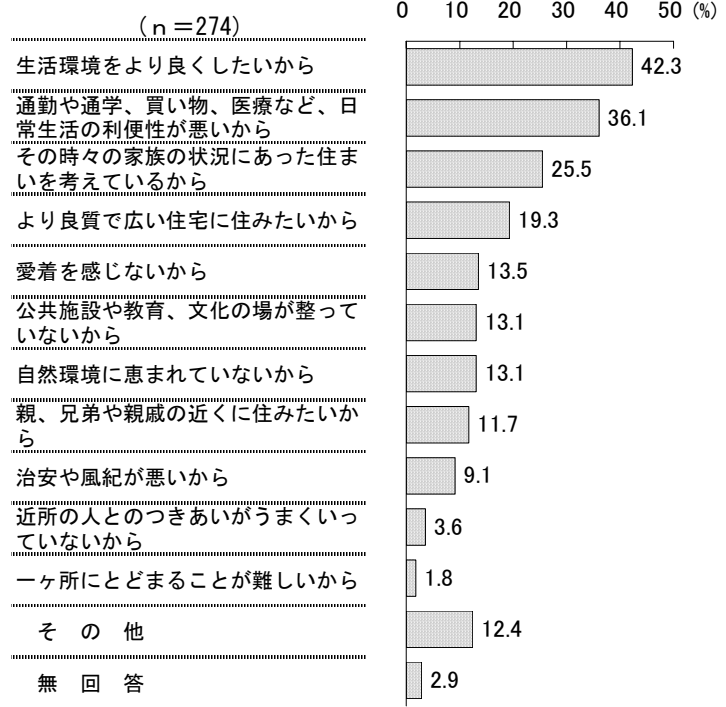
(1-1) 住み続けたい理由

「住み続けたい」と回答した1,017人を対象に、住み続けたい理由を3つまで選んでもらったところ、「自分の土地や家があるから」(63.0%)が6割台半ばとなっており、これに「住み慣れていて愛着があるから」(42.2%)と「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性がよいから」(31.9%)が続く。



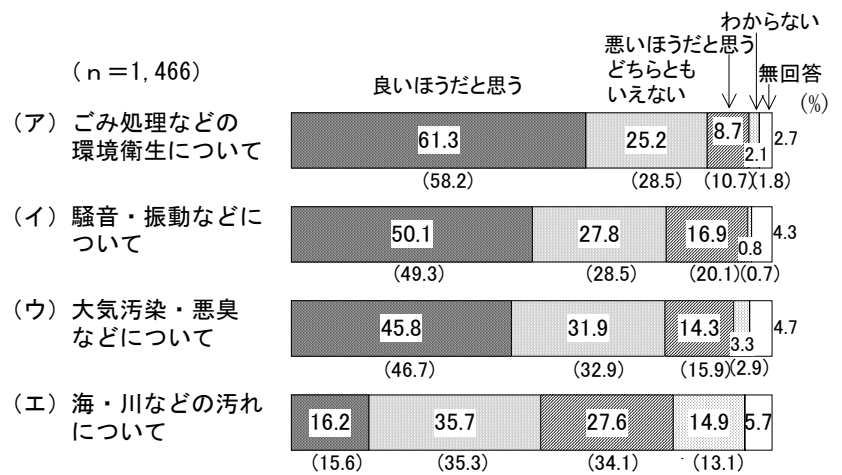
(1-2) 移りたい理由

「千葉県内のよそへ移りたい」、「千葉県外に移りたい」、「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」と回答した274人を対象に、移りたい理由を3つまで選んでもらったところ、「生活環境をより良くしたいから」(42.3%)が4割を超え、これに「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性が悪いから」(36.1%)と「その時々家族の状況にあった住まいを考えているから」(25.5%)が続く。



(2) 生活環境について

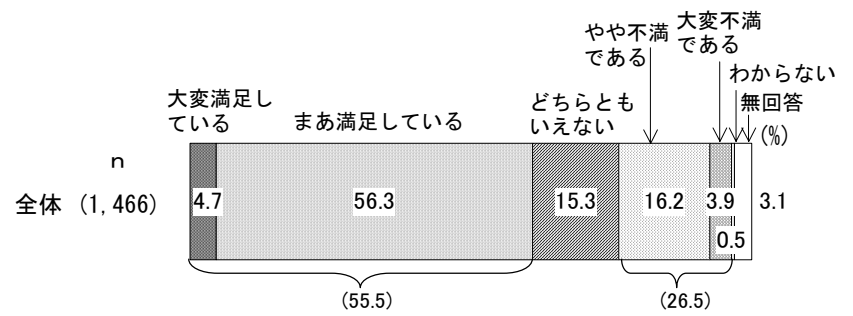
生活環境に関する4つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、〈ごみ処理などの環境衛生について〉(61.3%)で6割を超えている。以下、〈騒音・振動などについて〉(50.1%)で5割、〈大気汚染・悪臭などについて〉(45.8%)で4割台半ばとなっている。一方で、〈海・川などの汚れについて〉は、「良いほうだと思う」(16.2%)が1割台半ばにとどまり、「悪いほうだと思う」(27.6%)が約11ポイント上回っている。



注) 下段の()書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(3) 生活環境全般の満足度

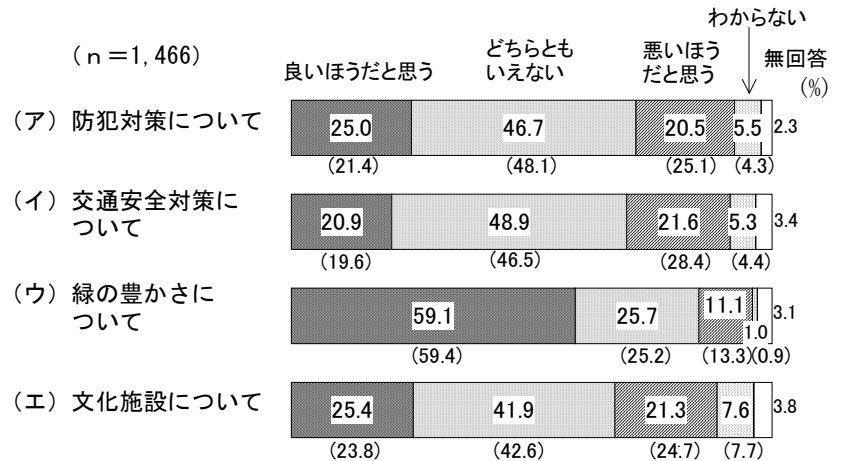
生活環境全般に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(4.7%)と「まあ満足している」(56.3%)を合わせた『満足している』(61.0%)は6割を超えている。一方、「やや不満である」(16.2%)と「大変不満である」(3.9%)を合わせた『不満である』(20.1%)は2割である。



注) 下段の () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果の「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』及び「大変不満である」と「やや不満である」を合わせた『不満である』を参考として示している。

(4) 自然・周辺環境について

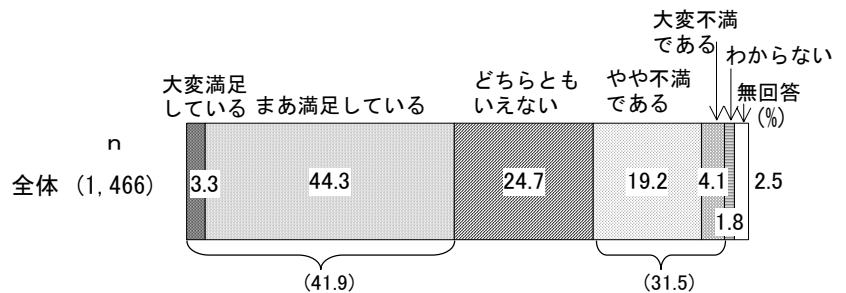
自然・周辺環境に関する4つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、〈緑の豊かさについて〉(59.1%)で約6割となっている。しかし、それ以外の3項目については、「良いほうだと思う」がいずれも2割台であり、〈交通安全対策について〉は「良いほうだと思う」が「悪いほうだと思う」よりも低くなっている。



注) 下段の () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(5) 自然・周辺環境全般の満足度

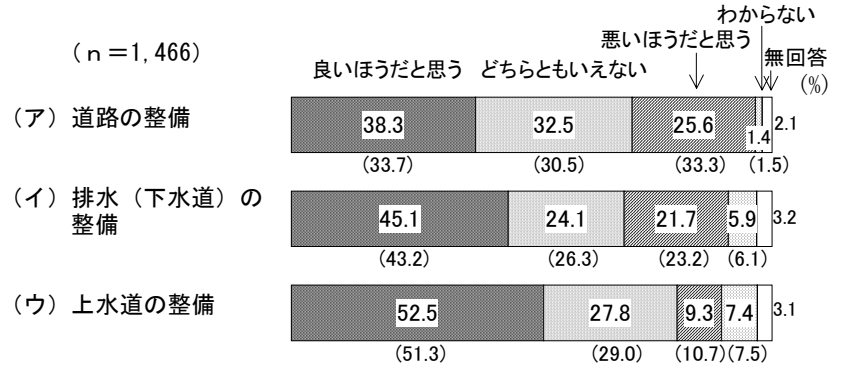
自然・周辺環境に関する4つの項目の全体について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(3.3%)と「まあ満足している」(44.3%)を合わせた『満足している』(47.6%)は約5割。一方、「やや不満である」(19.2%)と「大変不満である」(4.1%)を合わせた『不満である』(23.3%)は2割台半ばである。



注) 下段の () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果の「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』及び「大変不満である」と「やや不満である」を合わせた『不満である』を参考として示している。

(6) 基盤整備について

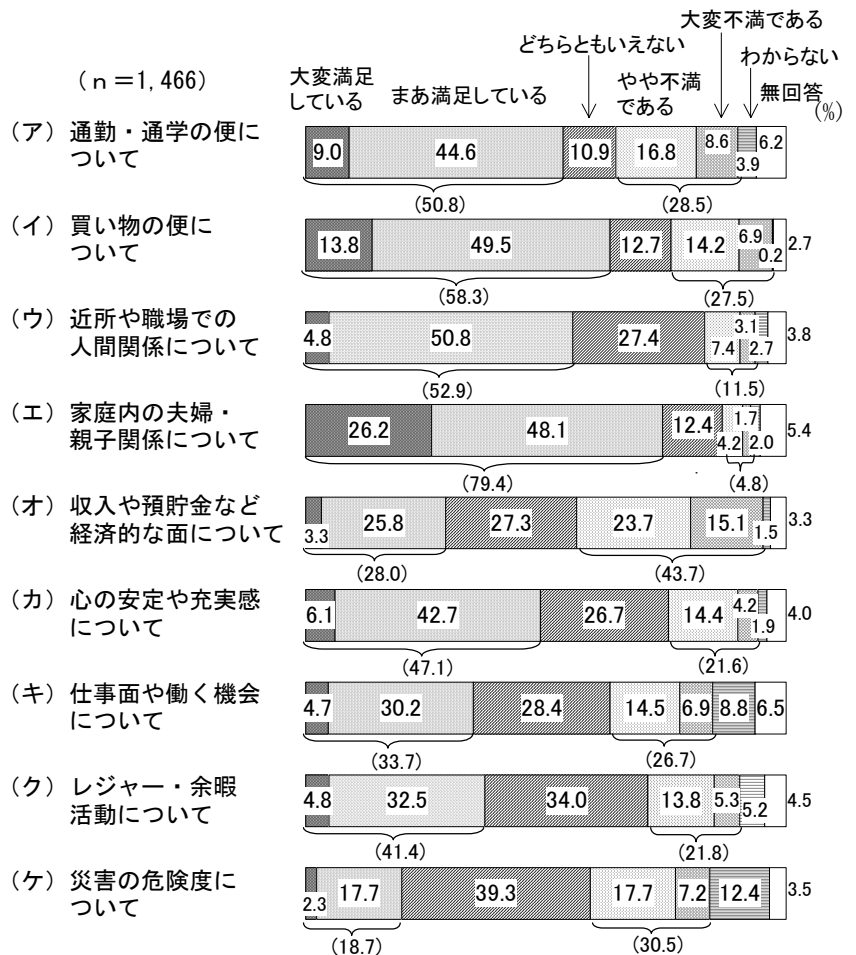
基盤整備に関する3つの項目について、それぞれの良し悪しを聞いたところ、「良いほうだと思う」が最も高いのは、〈上水道の整備〉(52.5%)で5割を超える。次いで、〈排水(下水道)の整備〉(45.1%)が4割台半ばとなっている。〈道路の整備〉については、「良いほうだと思う」(38.3%)が約4割となっている。



注) 下段の()書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(7) 現在の生活の満足度

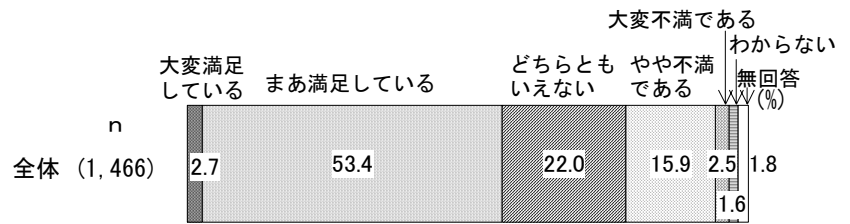
現在の生活に関する9つの項目について、それぞれの満足度を聞いたところ、「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』が最も高いのは、〈家庭内の夫婦・親子関係について〉(74.3%)で7割台半ばとなっている。以下、〈買い物の便について〉(63.3%)、〈近所や職場での人間関係について〉(55.6%)と続く。「やや不満である」と「大変不満である」を合わせて『不満である』とすると、9項目中7項目で『満足している』が『不満である』より多い中、〈収入や預貯金など経済的な面について〉と〈災害の危険度について〉は、『不満である』が上回っている。



注) 下段の()書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果の「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』及び「大変不満である」と「やや不満である」を合わせた『不満である』を参考として示している。

(8) 住生活全般の満足度

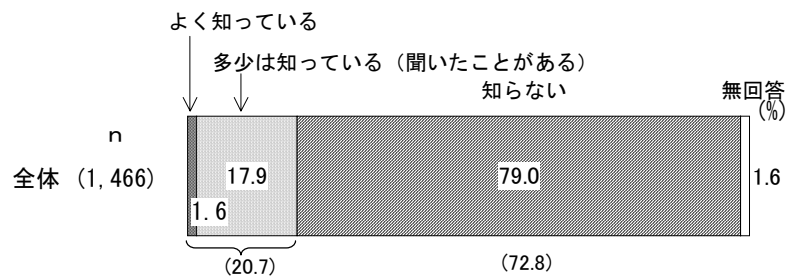
現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）に関する満足度を聞いたところ、「大変満足している」（2.7%）と「まあ満足している」（53.4%）を合わせた『満足している』（56.1%）は5割台半ばと多くなっている。一方、「やや不満である」（15.9%）と「大変不満である」（2.5%）を合わせた『不満である』（18.4%）は約2割である。



3 健康と福祉について

(1) 「新たな地域福祉像」の認知度

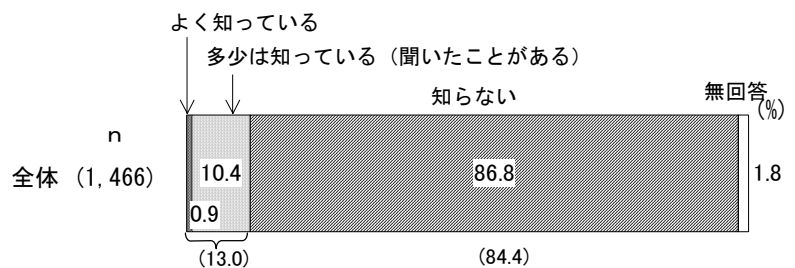
「新たな地域福祉像」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」（1.6%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（17.9%）を合わせた、『知っている』（19.5%）が約2割となっている。一方で、「知らない」（79.0%）は約8割で最も多い。



注) 下段の（ ）書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果の「よく知っている」と「多少は知っている（聞いたことがある）」を合わせた『知っている』及び「知らない」を参考として示している。

(2) 「健康福祉千葉方式」の認知度

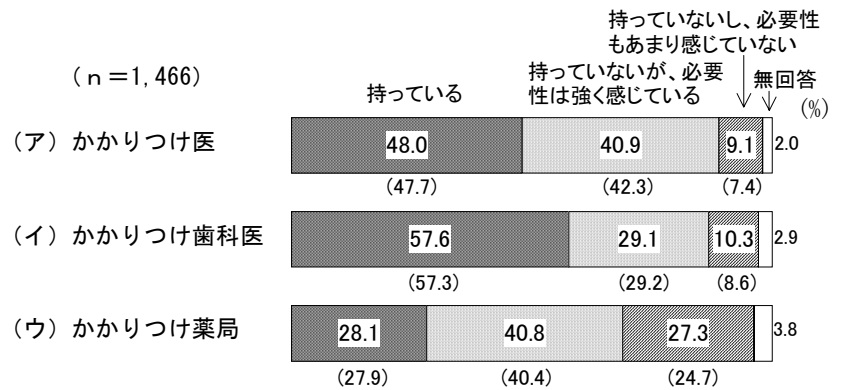
「健康福祉千葉方式」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」（0.9%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（10.4%）を合わせた『知っている』（11.3%）は1割台となっている。一方で、「知らない」（86.8%）は8割台半ばで最も多い。



注) 下段の（ ）書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果の「よく知っている」と「多少は知っている（聞いたことがある）」を合わせた『知っている』及び「知らない」を参考として示している。

(3) かかりつけ医の有無

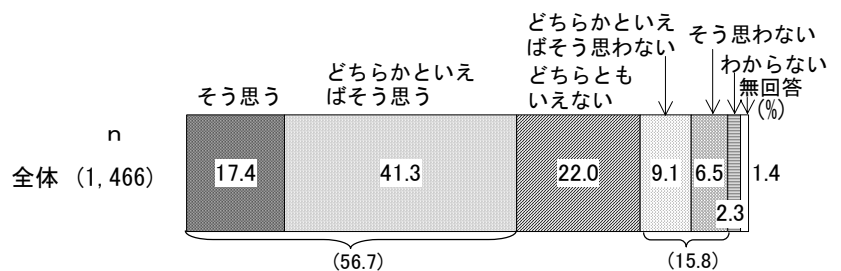
かかりつけの医師、歯科医、薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は、歯科医 (57.6%) で約6割、医師 (48.0%) で約5割だが、薬局 (28.1%) では約3割である。また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は、医師 (40.9%) と薬局 (40.8%) で4割となっている。「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は、薬局 (27.3%) で約3割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 18 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(4) ありのままの姿での生活

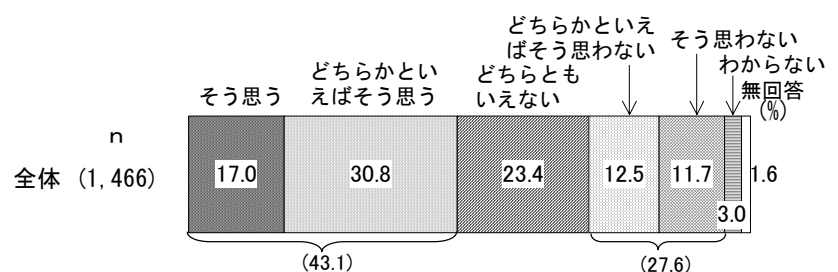
自身がありのままの姿で生活していると思うか聞いたところ、「そう思う」(17.4%) と「どちらかといえばそう思う」(41.3%) を合わせた『そう思う』(58.7%) が約6割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.1%) と「そう思わない」(6.5%) を合わせた『そう思わない』(15.6%) は1割台半ばとなっている。



注) 下段の () 書きは、平成 18 年度の同様の項目の調査結果の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』及び「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』を参考として示している。

(5) 健康づくりに取り組むことができる環境

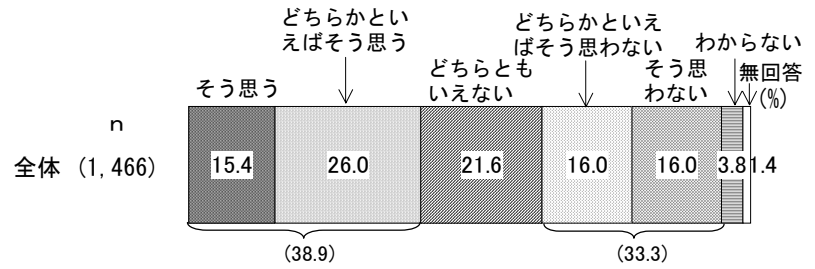
自分が積極的に健康づくりに取り組むことができる環境にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(17.0%) と「どちらかといえばそう思う」(30.8%) を合わせた『そう思う』(47.8%) は約5割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.5%) と「そう思わない」(11.7%) を合わせた『そう思わない』(24.2%) は2割台半ばである。



注) 下段の () 書きは、平成 18 年度の同様の項目の調査結果の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』及び「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』を参考として示している。

(6) 安心して受診できる医療体制

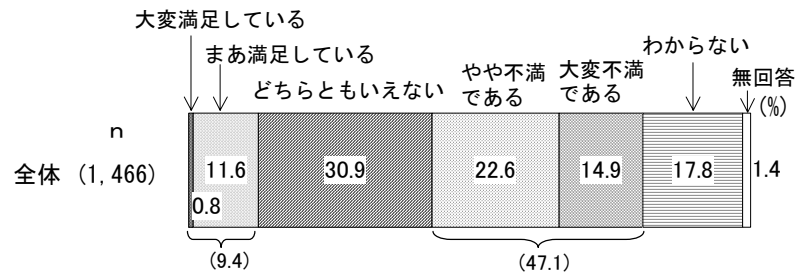
住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(15.4%)と「どちらかといえばそう思う」(26.0%)を合わせた『そう思う』(41.4%)は4割を超えている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(16.0%)と「そう思わない」(16.0%)を合わせた『そう思わない』(32.0%)も3割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』及び「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』を参考として示している。

(7) お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度

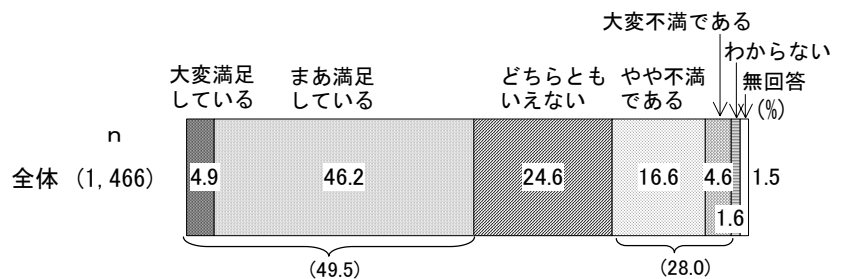
お年寄りが安心して暮らせる高齢者対策についての満足度を聞いたところ、「大変満足している」(0.8%)と「まあ満足している」(11.6%)を合わせた『満足している』(12.4%)が1割を超えている。一方、「やや不満である」(22.6%)が2割を超え、「大変不満である」(14.9%)も1割台半ばで、これらを合わせると、『不満である』(37.5%)は約4割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果の「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』及び「大変不満である」と「やや不満である」を合わせた『不満である』を参考として示している。

(8) 自分や家族の健康についての満足度

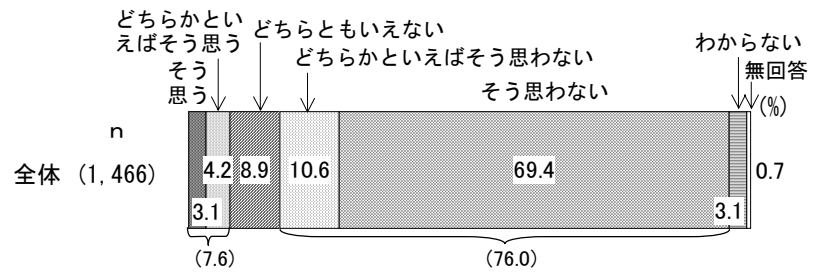
自分や家族の健康についての満足度を聞いたところ、「大変満足している」(4.9%)と「まあ満足している」(46.2%)を合わせた『満足している』(51.1%)が5割を超えている。一方、「やや不満である」(16.6%)と「大変不満である」(4.6%)を合わせた『不満である』(21.2%)も2割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果の「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』及び「大変不満である」と「やや不満である」を合わせた『不満である』を参考として示している。

(9) 理不尽な理由による差別等

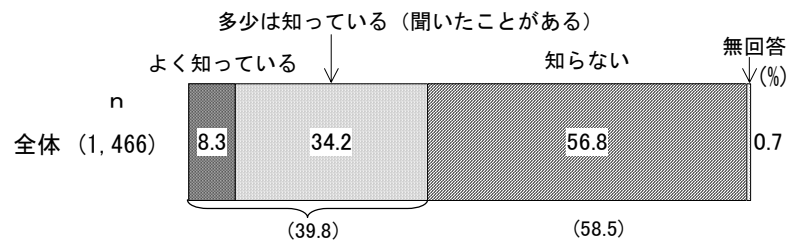
自分が理不尽な理由によって差別等の辛い目に遭っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.1%)と「どちらかといえばそう思う」(4.2%)を合わせた『そう思う』(7.3%)は約1割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.6%)と、最も多い「そう思わない」(69.4%)を合わせた『そう思わない』(80.0%)が8割となっている。



4 千葉県の農産物について

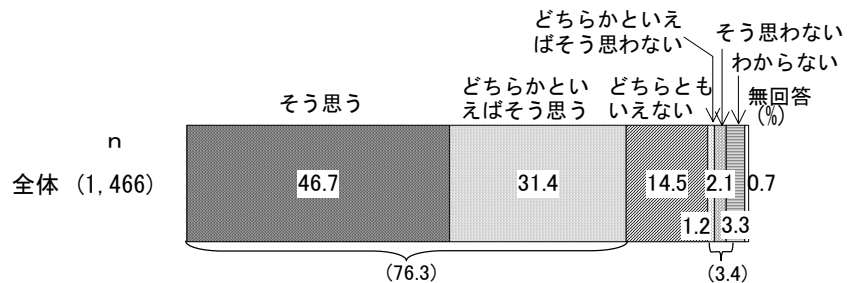
(1) 「ちばエコ農産物」の認知度

「ちばエコ農産物」の認知度を聞いたところ、「よく知っている」(8.3%)と「多少は知っている(聞いたことがある)」(34.2%)を合わせた『知っている』(42.5%)が4割を超えている。一方、「知らない」(56.8%)は5割台半ばである。



(2) 千葉産農産物の購入意向

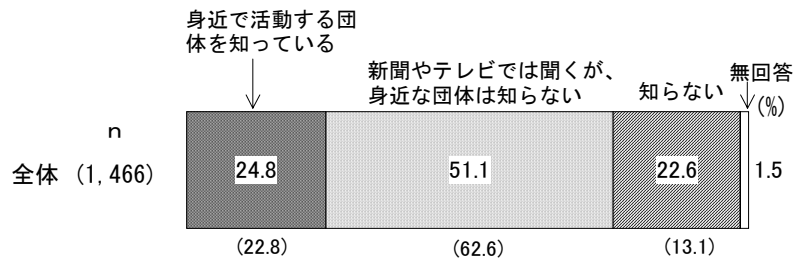
千葉県産農産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(46.7%)が4割台半ばで最も多く、「どちらかといえばそう思う」(31.4%)が3割を超える。これらを合わせた『そう思う』(78.1%)は約8割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(1.2%)と「そう思わない」(2.1%)を合わせた『そう思わない』(3.3%)はわずかである。



5 市民活動について

(1) 市民活動団体の認知度

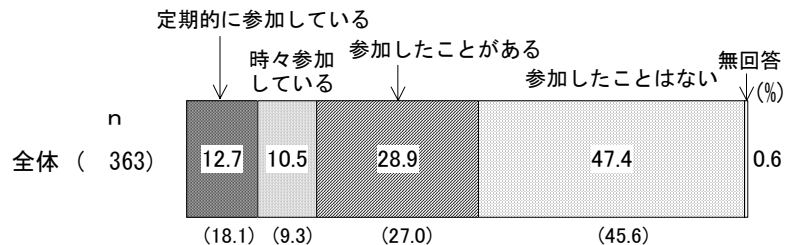
市民活動団体の認知度を聞いたところ、「身近で活動する団体を知っている」(24.8%)が2割台半ばとなっている。一方、「新聞やテレビでは聞くが身近な団体は知らない」(51.1%)は5割を超え最も多い。「知らない」(22.6%)が2割台となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 18 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(1-1) 市民活動への参加経験

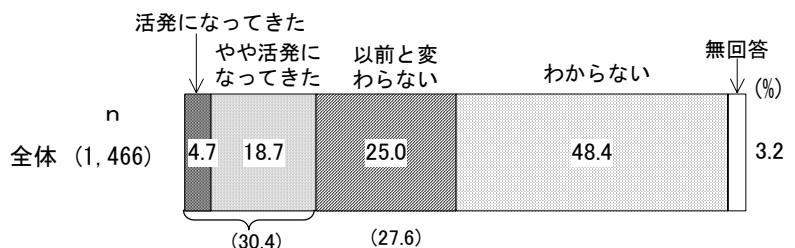
「身近で活動する団体を知っている」と回答した 363 人を対象に、市民活動への参加状況を聞いたところ、「定期的に参加している」(12.7%)と「時々参加している」(10.5%)を合わせた『参加している』(23.2%)が2割台半ばである。一方、「参加したことがある」(28.9%)は約3割、「参加したことはない」(47.4%)が約5割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成 17 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(2) 市民活動の地域での状況

市民活動の地域での状況を聞いたところ、「活発になってきた」(4.7%)と「やや活発になってきた」(18.7%)を合わせた『活発になってきた』(23.4%)が2割台半ばとなっている。一方、「以前と変わらない」(25.0%)も2割台半ばとなっている。なお、「わからない」(48.4%)が約5割である。

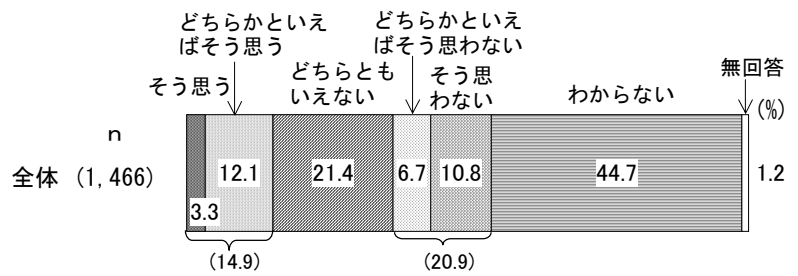


注) 下段の () 書きは、平成 18 年度の同様の項目の調査結果の「活発になってきた」と「やや活発になってきた」を合わせた『活発になってきた』及び「以前と変わらない」、「わからない」を参考として示している。

6 千葉県の施策・政策について

(1) 県民の視点に立った政策評価に基づく県政運営

政策評価が県民の視点に立った県政運営に役立っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.3%)と「どちらかといえばそう思う」(12.1%)を合わせた『そう思う』(15.4%)は1割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(6.7%)と「そう思わない」(10.8%)を合わせた『そう思わない』(17.5%)は約2割となっている。また、「わからない」(44.7%)が4割台半ばである。

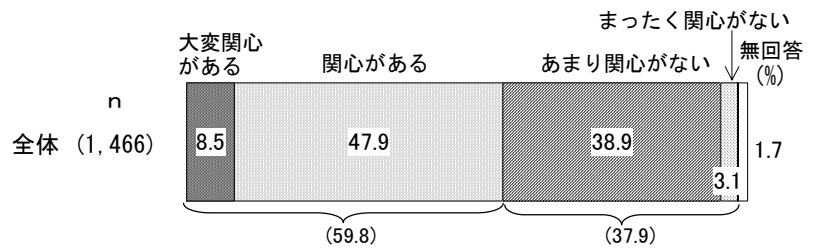


注) 下段の () 書きは、平成 18 年度の同様の項目の調査結果の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』及び「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』を参考として示している。

7 広報・広聴活動について

(1) 県の政策や施策などについての関心度

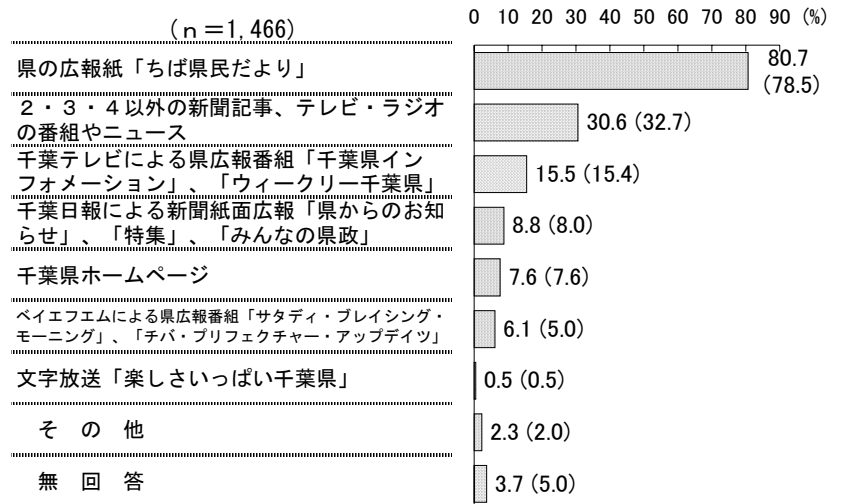
県の政策や施策などについての関心度を聞いたところ、「大変関心がある」が8.5%で、「関心がある」(47.9%)が約5割である。これらを合わせると、『関心がある』(56.4%)は5割台半ばとなっている。一方、「あまり関心がない」が38.9%と「まったく関心がない」の3.1%を合わせた『関心がない』(42.0%)も4割を超えている。



注) 下段の () 書きは、平成 18 年度の同様の項目の調査結果の「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある』及び「あまり関心がない」「まったく関心がない」を合わせた『関心がない』を参考として示している。

(2) 県政に関する情報を得る手段

県政に関する情報を得る手段をいくつでも選んでもらったところ、「県の広報紙『ちば県民だより』」(80.7%)が8割と最も多かった。次いで、「2・3・4以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(30.6%)が3割、「千葉テレビによる県広報番組『千葉県インフォメーション』、『ウィークリー千葉県』」(15.5%)が1割台半ばとなっている。

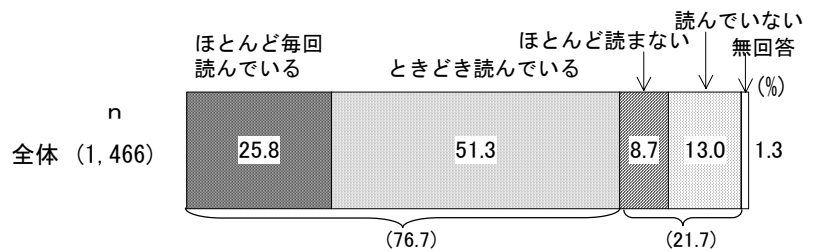


注) () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(※「2・3・4以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、2・3・4とは、『千葉日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」、「特集」、「みんなの県政」』、『千葉テレビによる県広報番組「千葉県インフォメーション」、『ウィークリー千葉県』』、『ベイエフエムによる県広報番組「サタディ・ブレッシング・モーニング」、「チバ・プリフェクチャー・アップデート」』を指す)

(3) 県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況

県広報紙「ちば県民だより」の閲読状況を聞いたところ、「ほとんど毎回読んでいる」(25.8%)は2割台半ばで、「ときどき読んでいる」(51.3%)が5割を超え最も多い。これらを合わせた『読んでいる』(77.1%)は約8割となっている。一方、「ほとんど読まない」(8.7%)と「読んでいない」(13.0%)を合わせた『読んでいない』(21.7%)は2割を超える。

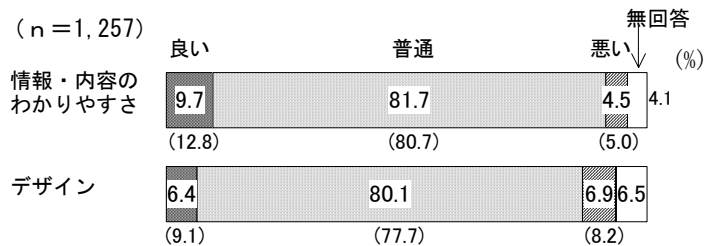


注) 下段の () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果の「ほとんど毎回読んでいる」と「ときどき読んでいる」を合わせた『読んでいる』及び「ほとんど読まない」と「読んでいない」を合わせた『読んでいない』を参考として示している。

(3-1) 「ちば県民だより」の内容について

「ほとんど毎回読んでいる」、「ときどき読んでいる」、「ほとんど読まない」と回答した1,257人を対象に、「ちば県民だより」の内容について聞いたところ、情報・内容のわかりやすさは、「良い」(9.7%)が約1割、「普通」(81.7%)が8割を超えている。

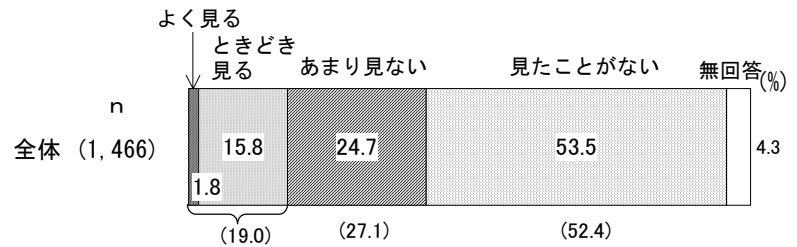
デザインの良さは、「良い」が6.4%で、「普通」(80.1%)が8割となっている。



注) 下段の () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(4) 県の広報番組の視聴状況

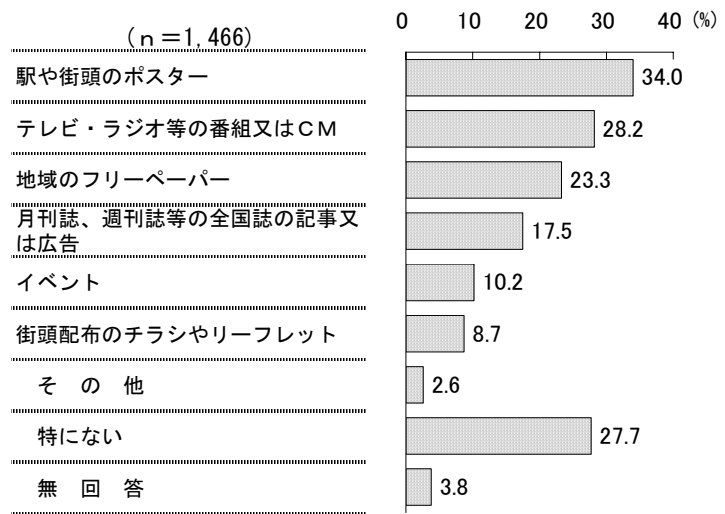
県の広報番組の視聴状況を聞いたところ、「よく見る」(1.8%)と「ときどき見る」(15.8%)を合わせた『見る』(17.6%)は約2割である。一方、「あまり見ない」(24.7%)が2割台半ばで、「見たことがない」(53.5%)は5割台半ばと最も多い。



注) 下段の () 書きは、平成 18 年度の同様の項目の調査結果の「よく見る」と「ときどき見る」を合わせた『見る』及び「あまり見ない」「見たことがない」を参考として示している。

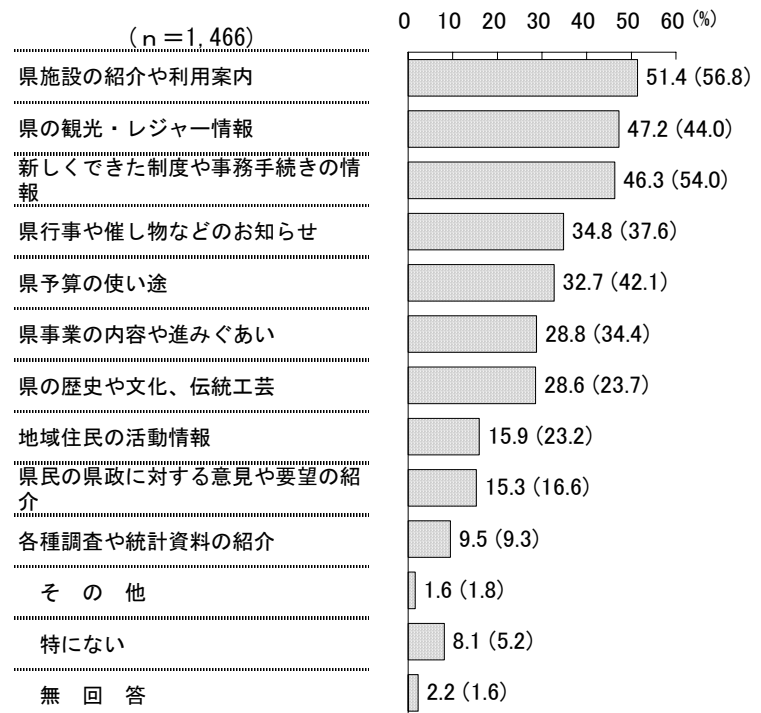
(5) 県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況

県の広報以外の媒体での県情報の視聴状況をいくつでも選んでもらったところ、「駅や街頭のポスター」(34.0%)が3割台半ばで最も多かった。次いで、「テレビ・ラジオ等の番組又はCM」(28.2%)、「地域のフリーペーパー」(23.3%)となっている。



(6) 県の知りたい情報

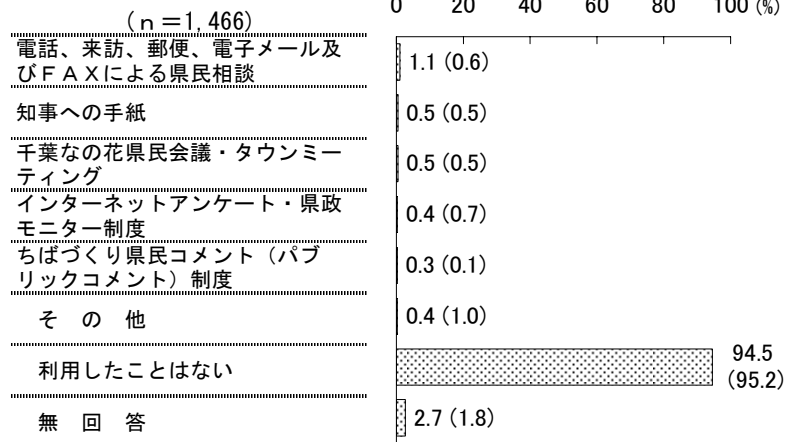
県について知りたい情報をいくつでも選んでもらったところ、「県施設の紹介や利用案内」(51.4%)が5割を超え高くなっている。次いで、「県の観光・レジャー情報」(47.2%)と「新しくできた制度や事務手続きの情報」(46.3%)が4割台半ばを超え、「県行事や催し物などのお知らせ」(34.8%)、「県予算の使い途」(32.7%)も3割を超えている。



注) () 書きは、平成 18 年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(7) 知事への手紙などで意見を述べた経験

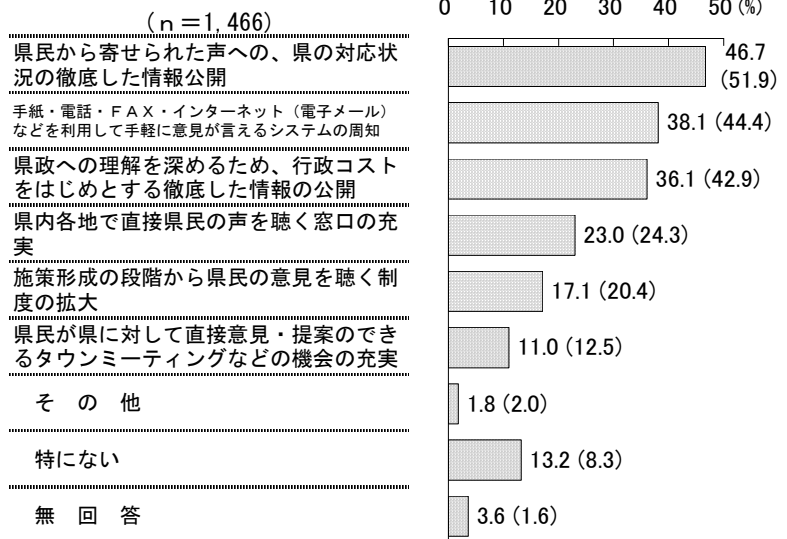
知事への手紙などで意見を述べた経験をいくつでも選んでもらったところ、「利用したことはない」(94.5%)が9割台半ば、利用したことのあるものでは「電話、来訪、郵便、電子メール及びFAXによる県民相談」が1.1%、「知事への手紙」と「千葉なの花県民会議・タウンミーティング」がそれぞれ0.5%となっている。



注) () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(8) 県政に対する意見を述べやすくするために必要なこと

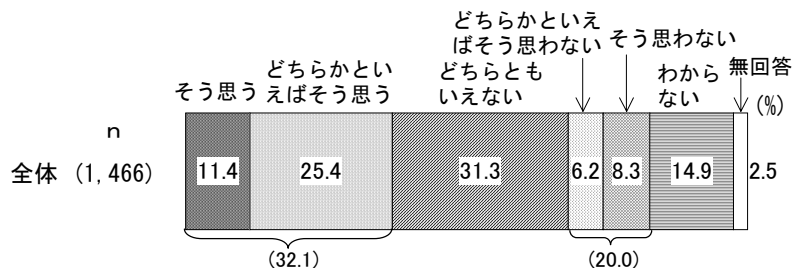
県政に対する意見を述べやすくするために必要なことを3つまで選んでもらったところ、「県民から寄せられた声への、県の対応状況の徹底した情報公開」(46.7%)が4割台半ばとなっており、これに「手紙・電話・FAX・インターネット(電子メール)などを利用して手軽に意見が言えるシステムの周知」(38.1%)と「県政への理解を深めるため、行政コストをはじめとする徹底した情報の公開」(36.1%)が3割台半ばを超え続く。



注) () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果を参考として示している。

(9) 県政への意見の反映

自分の意見を県政に反映させたいと思うか聞いたところ、「そう思う」(11.4%)と「どちらかといえばそう思う」(25.4%)を合わせた『そう思う』(36.8%)は3割台半ばとなっている。「そう思わない」(8.3%)と「どちらかといえばそう思わない」(6.2%)を合わせた『そう思わない』(14.5%)は1割台半ばである。

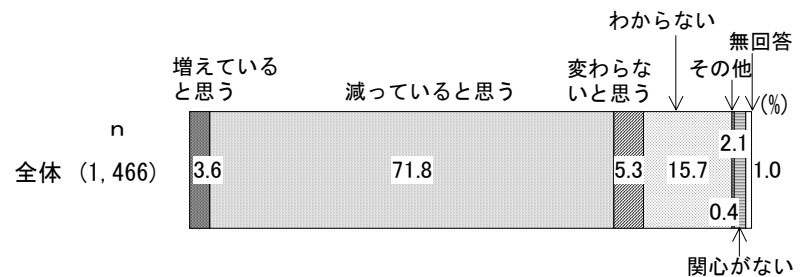


注) 下段の () 書きは、平成18年度の同様の項目の調査結果の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』及び「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた『そう思わない』を参考として示している。

8 「生き物」とその環境を守る取り組みについて

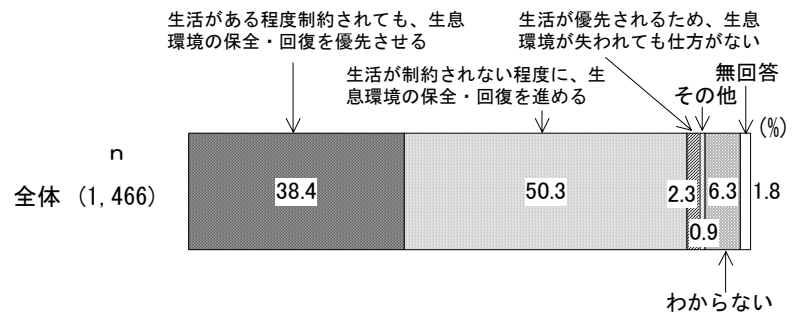
(1) 動植物や生息する場所の増減

動植物や生息する場所の増減について聞いたところ、「増えていると思う」(3.6%)が1割に満たず、「減っていると思う」(71.8%)が7割を超えている。



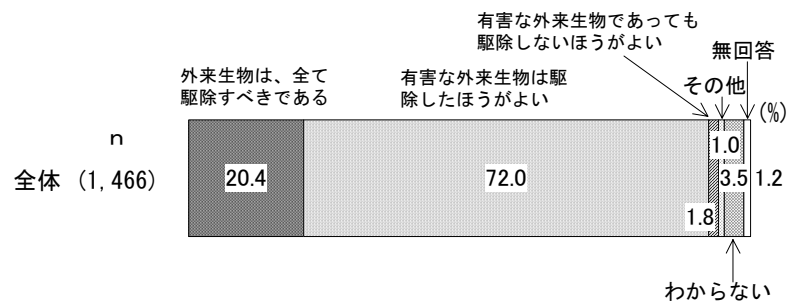
(2) 「生物多様性の保全」に対する考え

「生物多様性の保全」に対する考えについて聞いたところ、「生活が制約されない程度に、生息環境の保全・回復を進める」(50.3%)が5割、「生活がある程度制約されても、生息環境の保全・回復を優先させる」(38.4%)が約4割となっている。



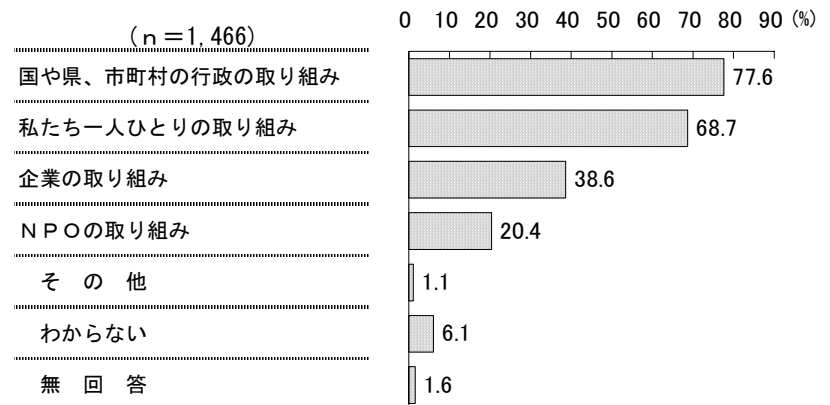
(3) 外来生物の駆除に対する考え

外来生物の駆除等に対する考えについて聞いたところ、「外来生物は、全て駆除すべきである」(20.4%)が2割、「有害な外来生物は駆除したほうがよい」(72.0%)が7割を超え、「有害な外来生物であっても駆除しないほうがよい」は1.8%となっている。



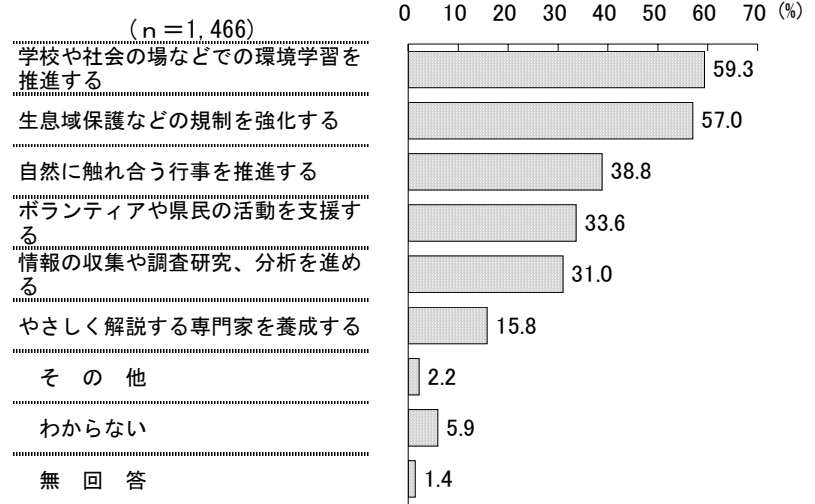
(4) 身近な生き物を守るために必要な取り組みの主体

身近な生き物を守る取り組みの主体について選んでもらったところ、「国や県、市町村の行政の取り組み」(77.6%)が約8割と高くなっており、これに「私たち一人ひとりの取り組み」(68.7%)が約7割、「企業の取り組み」(38.6%)が約4割で続く。



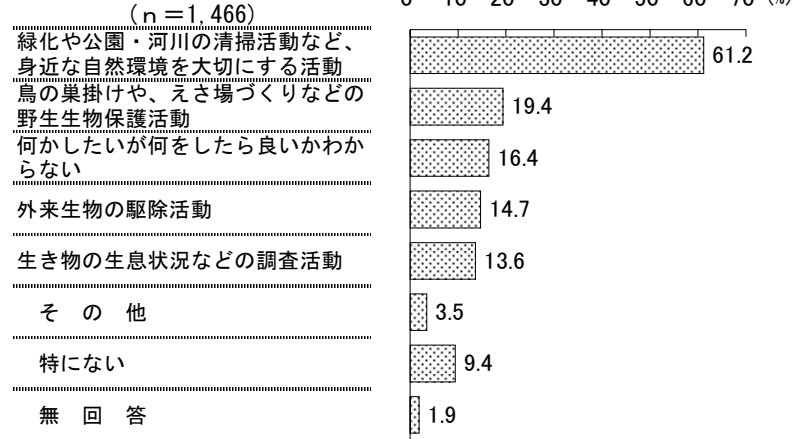
(5) 生き物を守るために県に期待する活動

生き物を守るために県に期待する活動について選んでもらったところ、「学校や社会の場などでの環境学習を推進する」(59.3%)、「生息域保護などの規制を強化する」(57.0%)が約6割と高くなっており、これに「自然に触れ合う行事を推進する」(38.8%)が約4割で続く。



(6) 生き物を守るために自分ができると思う活動

生き物を守るために自分ができると思う活動について選んでもらったところ、「緑化や公園・河川の清掃活動など、身近な自然環境を大切にする活動」(61.2%)が6割を超え高くなっており、これに「鳥の巣掛けや、えさ場づくりなどの野生生物保護活動」(19.4%)と「何かしたいが何をしたら良いかわからない」(16.4%)が続く。



【自由回答（抜粋）】

県への意見を自由に記述していただいたところ、372人から延べ486件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った分野で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

■県政全般に対する要望

○首都圏にある、自然も残っている。このメリットを生かして、バランスの取れた品格のある美しい郷土を目指してほしい。(男性・60歳以上・西地域)

○あらゆるマナーとモラルが低下していると思います。少なくとも「千葉県」は恥ずかしくない県であってほしい。(女性・30代・中央地域)

■道路を整備する

○市川市、船橋市などの西地域の道路渋滞がひどいので改善してほしい。特に湾岸地域を走るトラックがスムーズに通行できるようにしてほしい。(男性・30代・中央地域)

■調査に関して

○アンケートに答えるうち、自分が県政に対して、ほとんど無関心であった事を痛感しました。日頃、都内へ勤務しており、身近な市政にはそれなりに興味がありますが、県が私にしてくれている事は意識していませんでした。反省しています。今後は「県民だより」等に目を通して注意して県政を見守りたいと思います。良い機会をいただいて感謝しております。(女性・50代・西地域)

■県政情報の発信や活動のPRについて

○私の情報収集不足かもしれませんが、県政が具体的に何をしているか、よくわかりません。新聞の地域版等にどンドン政策等をのせてほしいです。(男性・30代・西地域)

■高齢者の福祉を充実する

○今現在、老人介護にあたっており、何をやるにも車がなければ生活ができない。今現在は、自分自身車に乗れるのでよいのですが、これから先、老後、とても若い方に面倒をみてもらう事も不可能であろう！！近所の老人の方を見ている、とっても大変である。だんだん田舎でも同居される方も少なく、老人一人で住んでいる方が増えている。先を考えるとここの場所に住んで行くのは難しいと思う。何かこれからの事を一つ一つ考えて、行政として手を差しのべてほしいと思います。(女性・50代・東地域)

■便利な交通網を整備する

○私の住む南房総では観光に力を入れていて、海岸も整備されてきていますが、なんといっても交通の便が悪いと思います。電車もバスも1時間に1本くらいだと思います。どうかしてほしいです。(女性・20代・南地域)

■県警への要望

○他県からの居住者であるが、交通マナーの悪さにびっくりしている。警察官の人員不足があると思うが、今以上の取り締まり指導を強化してもらいたい。(男性・50代・中央地域)

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

○現在未就学児までになっている医療費補助制度を小学生まで拡充してほしい。インフルエンザの予防接種の子ども(小学生以下)への補助がほしい(今65才以上は1000円の補助有)。(女性・30代・東地域)

■学校教育を充実する

○早急に全学校に冷房(できれば冷暖房)を入れてください。今年のような猛暑でエアコンなしでは、子どもの健康が心配です。一般の人の多くは、学校は冷暖房完備だと思っている人が大変多いです。とにかく早急をお願いします。全小中高校に冷暖房完備を！！学校の環境はあまりに劣悪です。ここには書ききれませんが何とかしてください。地域格差があります。(男性・30代・東地域)